



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第14弾として、下水道分野の業務内容を、佐賀市上下水道局へ出向している見正部長（入省7年目）より語っていただきました！



見正部長（入省7年目）

1. 下水道分野の業務の国交省における役割を教えてください。

下水道分野の業務といえば、よく町中で見かける下水道工事や、自宅に伝票で届く下水道使用料の徴収などが思いつくと思いますが、これらを実施・管理しているのは、すべて地方公共団体となります。そして、この地方公共団体からの依頼を受けて、下水道工事を請け負ったりするのが地元の建設会社、下水処理場の設計するのがコンサルタントといった民間企業です。

では、国土交通省は何をしているのか？これらの下水道事業を適正に実施してもらうため、法律によるルールづくりや必要な事業を実施してもらうための予算配分、また地方公共団体や民間企業が実施する業務のガイドラインやマニュアルの作成など、全国の下水道事業者をサポートする業務を中心に担っています。特に、圧倒的な情報量と広い視野で下水道の政策立案ができる本省業務は、国の仕事の醍醐味の1つでもあります。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

最近、テレビや雑誌で、古くなった建物や町並みを新たなものへと再生する「リノベーション」という言葉がよく聞かれます。実は下水道業界においても、この「リノベーション」という言葉が使われています。

全国の下水道施設では、高度経済成長期に建設された管渠や処理場など、急速に老朽化が進んでいますが、このようなピンチの状況を「チャンス」とプラスの方向に捉え、この改築のタイミングでより良い汚水処理のシステムへと構築し直そうとする考えが「下水道リノベーション」であります。

例えば、いま私が出向している佐賀市では、下水処理場の改築や増設のタイミングに合わせ、新たに近くの小規模処理場（し尿処理場）や食品工場から排出される汚泥を新たに受け入れるとともに、不要となる施設を廃止することで、将来の維持管理費をカットする取組を進めています。加えて、新たに受け入れる汚泥に含まれる有機物などの資源を用いて、発電や肥料化へ活かし、下水道から排出されるゴミをゼロにするなど、時代に応じた仕組みへ作りなおすことで、真の持続を目指しているところです。



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

下水道行政は、国の直轄事業がなく、2年前までは、本省で予算や企画の担当をしていたので、現場からは離れた業務を担当していましたが、現在は佐賀市でより現場に近い部署で仕事をしています。

処理場や管渠の維持管理から、今後の下水道の計画、また下水道使用料を含む経営的な面まで、関係者への説明等も含め、幅広い業務を担当しております。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

事業を遂行するにあたって、市民や議会など伝えられる側からどう見られているかです。

これまで、本省や直轄の事務所、県、市で勤務してきましたが、特に現場に近い人間であればあるほど、これが重要だと感じています。よく現場に出ると市民や関係者に向けた説明では、「お母さんへ説明するように分かりやすく」と言われてきました（本省時代の部長の言葉をお借りしました）が、説明の内容に関係なく、これに加えて「信頼される人」かどうか非常に重要になってきます。

同じような説明であっても、伝える人によって、伝えられる側の受け取られ方は違います。

例えば事業効果を示すにあっても、一般的に本省の仕事では具体的な数値を出せば、世間ではその数値だけが見られます。しかし、現場の人間にとっては、この数値を出した「自分」まで見られることを意識しなければなりません。この「自分」を見られる際は、なかなか一言で言い表せませんが、専門性や知識、トーク力ではなく、この人に委ねてもいいと内側から感じられる「豊かな人間性」が必要なのかなと思っています。

これは、1～2ヶ月で培われるものではなく、長年の経験や地域との付き合いで自然に生み出されるものだと思いますが、ぜひ入省された際はこのような「現場を動かす人」を見つけてみてください。

※もちろん、私はこのような人間ではありません。



5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

おそらく就職するにあたって「やりたいこと」が見つからない方、本当は多くいるかと思います。ちなみに、私は特段やりたいことがあって国交省へ入省したわけではありませんでした。

その場合は、仕事の内容を一旦抜きにして、「誰と」「どこで」..仕事をしたいかなど、視野を広げて考えてみるのもいいかもしれません。(ぶっちゃけ「誰と」は非常に重要です。)

私は、もともと旅が好きだったので、転勤を楽しみたいと思い+ The 官僚みtainなイメージではなく、なんか直感的に面白い人が多いなと思い、国交省を選びました。

実際これまでも、東京に限らず、大分(ダム)、宮崎(河川)、佐賀(下水道)で勤務し、これらの経験のなかで霞が関では感じるできない多くの出会い(人、場所、仕事、プライベートすべて)もありましたので、国交省へ入省してからの20代は大変貴重な経験ができたと思っています。

すこしの外れなメッセージかもしれませんが、進路に迷われている方はご参考に。



有明海を望む筆者(左)と、下水道と縁の深い佐賀海苔※(右)

※「BISTRO 下水道」で検索してみてください 背景は全国の下水道事業者で年1回行う駅伝大会のもの